

【事業実績】 博物館セキュリティ強化・連携推進事業

① 国際連携事業

ICOM-ICMS（国際博物館会議・博物館セキュリティ国際委員会）東京大会 2023 の開催

「地域に根差した防災セキュリティネットワークの構築」というテーマで、国内外の博物館セキュリティの専門家や研究者が各国での文化財保護の取り組みを紹介・意見交流を行った。

期間：2023年10月11日～12日

会場：東京国立博物館

形式：ハイブリッド

参加人数：約140名（海外からは24名）

参加国数：15ヶ国

内容：

- ・日本舞踊 歓迎の舞
- ・記念写真
- ・基調講演（国内外3名）
- ・研究発表（12組13名）
- ・次年度大会のお知らせ など

参加者の感想

この大会を通して、世界から集った同分野の研究者や博物館関係者と意見交換を直接行うことができました。そこで新たに培った知識やネットワークは、今後の自身の仕事や研究において大いに役立つと確信しています。



大会の様子

② 文化遺産防災セキュリティチェック体制構築事業

海外セキュリティ専門家による防災セキュリティ調査を日本の主要な文化施設にて実施

合計12の施設に専門家を派遣し、各地のセキュリティ体制の状況や改善点に関する評価をしてもらい、さらなる体制強化に向けてフィードバックを現地の施設職員と共有した。

10月8日 兼六園（世界遺産申請候補地）、金沢城（世界遺産申請候補地）

専門家人数：2人

兼六園・金沢城の美しさは確かに魅力的です。その価値を国際的に認識されるためにユネスコとの連携が不可欠です。



兼六園

10月8~9日 白川郷（世界遺産）

専門家人数：2人

郷内の禁煙化または喫煙エリアの設定や、郷内のルールをマンガを通じて教育することは素晴らしい試みです。



白川郷

10月13日 日光東照宮（世界遺産）、日光東照宮宝物館

専門家人数：20人

歴史的建造物内の出口や非常口のサインが不足しており、火災時に避難が難しい点に改善の余地があります。



日光東照宮

10月14日 東京富士美術館、高尾 599 ミュージアム、高尾山（日本遺産）

専門家人数：17人

日本では銃などの武器は一般的に使用されないが、非武装の警備員や監視員が緊急事態に対処するためにどのような手段を取るかが課題です。



高尾 599 ミュージアム前での消防訓練

10月15日 元離宮二条城（世界遺産）、京都市京セラ美術館

専門家人数：1人

城内の防災施設や避難経路について十分な対策が取られており、災害時に訪れる人々の安全が確保されていると評価します。



元離宮二条城

10月16日 姫路城（世界遺産）

専門家人数：1人

24 時間体制で警備員が常駐しているなど、城内の防災施設や避難経路においては、総合的に、十分な対策が講じられています。



姫路城

③ データベース構築事業

ICOM-ICMS 東京大会とセキュリティ視察の報告書を作成・共有

1. 日本語版 ICOM-ICMS 東京大会 2023 報告書の作成（製本）
→ 製本として日本全国 1 1 0 0 ヲ所の博物館・美術館に配送・共有
2. 英語版 ICOM-ICMS 東京大会 2023 報告書の作成（製本）
3. 日本語版 博物館防災セキュリティ視察報告書の作成（製本）
→ 製本として 12 の視察地に配送・共有

上記の 3 つの報告書はデータで提出

→ ICOM 日本委員会、全国美術館会議、日本博物館協会の各ウェブサイトにも掲載（近日公開）

ICOM 日本委員会 <https://icomjapan.org/>

全国美術館会議 <https://www.zenbi.jp/>

日本博物館協会 <https://www.j-muse.or.jp/>